

今週（3月2日から3月6日）の短期金融市場動向

●インターバンク市場

今週の日銀当座預金残高は、財政融資資金の揚げ、税・保険料の揚げ、国債発行などの要因から、週末には391兆円程度まで減少した。新型コロナウイルスの世界的感染拡大を受け、日本銀行が週初に国債買現先オペを4年ぶりに実施し、GCレポレートが▲0.10%を下回って推移したことや、足許の待機資金が増加したことなどの要因から、オファーサイドの資金運用ニーズが高まり、無担保コールO/N物の加重平均レートは日を追うごとに低下する展開となった。一方で、ビッドサイドの調達ニーズの相違から出会いレートは二極化していた。引き続きビッドサイドには厚みがあったことで、無担保コールの市場残高は、5日にはマイナス金利導入以降では初の12兆円台を記録した。無担保コールO/N加重平均レートは、▲0.04%台半ば～▲0.02%台前半での推移となった。ターム物はオファーサイドが乏しい中、ショートタームで▲0.01%近辺の出会いが散見された。

●レポ市場

今週のO/N GC は、週初2・3日に国債買現先オペが実施されたことや、投資家が資金運用サイドに転じたことを受けてレートが低下する展開となり、▲0.165～▲0.055%と広いレンジで推移した。週初2日は、▲0.085～▲0.055%の出会い。翌3日は、投資家が資金運用姿勢を強めたことから▲0.150～▲0.085%の出会いとなった。4日も▲0.150～▲0.085%での出会いと広いレンジで推移し、5日は▲0.165～▲0.115%、6日は▲0.155～▲0.130%の出会いとなった。SCについては5Y137～141、10Y336～341、352～357、20Y169～171、30Y59～65、40Y9～12などにビッドが多くみられた。

●短国市場

今週の短国市場は、海外勢の買いが入っていることや、新型コロナウイルスの世界的感染拡大の影響を受け、債券相場全体が堅調に推移したこともあって、強含みで推移した。3M物は▲0.300～▲0.200%程度での出会いが見られた。

3日に実施された短国買入オペは、5,000億円がオファーされた。平均落札利回較差+0.016%、按分落札利回較差+0.011%と、在庫調整の売りからか、弱めの結果となった。

6日に実施された3M物の入札は、WI取引において▲0.200%から出会い始め、一時▲0.285%まで買い進まれる展開となったものの、平均落札利回▲0.2697%、按分落札利回▲0.2505%とWI取引ほどの過熱感は見られない結果となった。

●CP市場

今週のCP市場は、幅広い業態において大型案件があったため、週間償還総額4,500億円程度に対して、発行総額は8千億円程度と、月の初旬としては活況な滑り出しとなった。この時期は3月末残高を調整する企業の発行案件が多く見られるが、本年は新型コロナウイルスの影響により、前倒しで期越え物を発行することで足元の資金を手厚くする発行体が多く見られている。市場残高は2月下旬から急上昇しており、2月末は約22.8兆円と月末の残高としては過去最高を更新した。3日以降は日次においても過去最高の発行残高を更新し続けており、6日には初めて24兆円台となった。発行レートについては、一部の発行残高の少ない希少銘柄については強めの買いが見られたものの、ニーズの弱い3月末償還物や発行残高が大きい銘柄においては、上昇幅は僅かであるものの、明らかな上昇傾向が見られた。

4日にはC P等買入オペが事前通知より500億円増額の4,000億円で実施された。当日の増額によりレート低下も予想されたが、結果は、平均落札レート0.002%・按分レート▲0.001%（前回平均0.000%・按分▲0.001%）と、業者の売却姿勢の強さが反映されたことで、レート低下には至らなかった。

●短期金融市場関連指標

	日経平均（円）	新発10年物 国債利回り（%）	為替 （ドル/円中心相場）	無担保コールO/N （加重平均・%）	東京レポレート（翌日物・ T+1スタート・%）	日銀当座預金残高 （億円）
3/2（月）	21,344.08	△ 0.140	107.67	△ 0.023	△ 0.068	3,978,700
3/3（火）	21,082.73	△ 0.115	108.32	△ 0.024	△ 0.096	3,964,300
3/4（水）	21,100.06	△ 0.145	107.35	△ 0.032	△ 0.152	3,899,300
3/5（木）	21,329.12	△ 0.115	107.31	△ 0.042	△ 0.150	3,910,100
3/6（金）	20,749.75	△ 0.140	106.24	△ 0.052	△ 0.144	3,910,300

来週（3月9日から3月13日）の短期金融市場動向

●経済カレンダー

	国内主要経済指標	国債等入札予定			海外主要経済指標
3/9 (月)	10-12月期のGDP 2次速報(内閣府 8:50) 1月の国際収支(財務省所管・日銀作成 8:50) 2月の景気ウォッチャー調査(内閣府)	TB6M 26,000億円 3/10発行			
3/10 (火)	2月のマネーストック(日銀 8:50)	5Y 19,000億円 3/11発行			10-12月期のユーロ圏GDP確報値
3/11 (水)		エネルギー 対策借入 5,000億円 3/23借入			2月の米財政収支 2月の米消費者物価指数
3/12 (木)	1-3月期の法人企業景気予測調査季報 (内閣府・財務省共管 8:50) 2月の企業物価指数(日銀 8:50)	20Y 9,000億円 3/13発行			ECB定例理事会(金融政策発表) 2月の米生産者物価指数
3/13 (金)	1月の第3次産業活動指数(経済産業省 13:30)	TB3M 47,400億円 3/16発行			3月のミシガン大消費者信頼感指数速報

●資金需給予想

単位：億円	銀行券要因	財政等要因	資金過不足	オペ種類	期日分	新規実行分	オペ合計	実質過不足	需給要因
3/9 (月)	1,000	1,900	2,900	国債買入 CP買入 ETF買入 国債補完	▲ 300 100	3,600 4,000 600	8,000	10,900	TB3M発行▲47400償還42800
3/10 (火)	1,000	▲ 2,000	▲ 1,000				0	▲ 1,000	TB6M発行▲26000償還22000
3/11 (水)	0	▲ 20,000	▲ 20,000				0	▲ 20,000	5Y発行▲19000
3/12 (木)	0	2,000	2,000				0	2,000	源泉税揚げ
3/13 (金)	0	▲ 6,000	▲ 6,000				0	▲ 6,000	20Y発行▲9000 交付税借入▲11700期日10500
週 間 合 計	2,000	▲ 24,100	▲ 22,100	—	▲ 200	8,200	8,000	▲ 14,100	

3/9は日銀予想、3/10以降は当社予想

●短期金融市場の見通し

インターバンク市場は、積み最終週となることから調整の調達が入ると予想される。一方で、積みの進捗を早めていた一部の先では調達を抑える動きも予想され、強弱入り乱れる展開が考えられる。ただ、無担保コールO/N加重平均レートが上昇したとしても、上昇余地は限られると見込まれる。レポ市場は、国債買現先オペの期間が今積み期間と重なる16日エントであったことなどを踏まえると、GC T/Nは引き続き▲0.100%を下回る水準での取引が予想される。短国市場は、9日に6M物、13日に3M物の入札が実施予定となっている。GCレートが低水準で推移する中、強含みの相場がどこまで継続するか市場動向が注目される。短国買入オペは11日に実施が見込まれる。CP市場は、特段の大きなイベントは無いが、新型コロナウイルスによる影響が需給へどのように影響するかが注目される。

主要なイベントとしては、国内では9日に10-12月期のGDP2次速報、海外では10日に10-12月期のユーロ圏GDP確報値、11日に2月の米国CPI、12日にECB定例理事会が予定されている。また、2020年3月～2020年5月積み期間に適用される、日本銀行当座預金のマクロ加算残高にかかる基準比率が9日の17時に公表される予定となっている。基準比率（現在31.5%）は、3月に33.0%、4・5月に36.0%が適用されると予想する。

◆本資料は信頼できるとされる各種データに基づいて作成されておりますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。

◆本資料は何らかの取引を誘引することを目的としたものではありません。売買に関する最終判断はお客様ご自身でなされますようお願い申し上げます。

◆金融商品のお取引には価格変動等によるリスクがあります。金融商品のお取引には手数料等をご負担頂くものがあります。金融商品取引法に基づきお渡しする書面や目録見書をよくお読みください。

セントラル短資株式会社 登録金融機関関東財務局長（登金）第526号 日本証券業協会加入